

彼らが奏でるのは、一縷の希望か。
それとも全てを覆いつくす絶望か。

i i c h i k o presents

ワレリー・ゲルギエフ 指揮 マリンスキー歌劇場管弦楽団

The Mariinsky Orchestra

リャードフ: キキモラ

ラフマニノフ: ピアノ協奏曲第3番 (ピアノ: デニス・マツォーフ)

ショスタコーヴィチ: 交響曲第11番「1905年」

2012年 **11月8日(木)** 開演19:00 開場18:15

i i c h i k o グランシアタ

GS席12,000円/S席10,000円/A席8,000円/B席6,000円/学生割引 半額 (S~B席のみ・25歳以下の学生対象) ※iichiko総合文化センターのみ取扱・要学生証
【チケット取扱】 i i c h i k o 総合文化センター 1Fインフォメーション 097-533-4006・トキハ会館3Fプレイガイド 097-538-3111
ローソンチケット (Lコード: 87206) 0570-000-407・チケットぴあ/セブンイレブン各店 (Pコード: 169-183) 0570-02-9999・中央プレイガイドビートパワー 097-538-1386
2012年7月14日(土) 10:00 販売開始 後援: 大分合同新聞社

主催: (財)大分県文化スポーツ振興財団 TEL.097-533-4004

暴力は芸術に転化するか

—1905年の挽歌に寄せて—

井手口 彰典 (鹿児島国際大学)

暴力はキライだ。なにしろ痛いし、度が過ぎれば死んでしまう。けれど残念なことに、世の中には暴力が溢れている。だから、もしも暴力との不幸な遭遇を避けたいというのであれば、卑屈と知りつつ我が身を小さく縮めて生きる他ない。

ただ、そんな社会的害悪＝暴力を通じてしか描けない質の昂揚や感動があるというのも、きっと事実なのだろう。それは大火力で敵をなぎ払う爽快感なのかもしれないし、あるいは無残に散らされた幾多の命に対する共鳴なのかもしれない。いずれにせよ暴力は時に我々の心を大きく揺さぶる。そしてクラシック音楽もまた、そんな暴力を直接的に表現することがある。

クラシックが暴力?と疑問に思われるかもしれない。上品でハイソなクラシックに、粗野な暴力など全く似合わないだろう。と。だがそうした幸福なイメージは必ずしも現実と一致しない。パンクロックともヘヴィメタルとも異なる圧倒的暴力を、クラシックはしばしば振るう。オーケストラを構成する数十人の兵士が一糸乱れぬコントロールのもとで叩き出す音塊は、物理的な音量を超えた破壊力であなたを張り倒すだろう。

そんな音楽的暴力を体感する上で、ショスタコーヴィチの第11交響曲は最良の(したがってまた、最悪の)作品だ。1905年に起きた「血の日曜日事件」と呼ばれる出来事を題材に、帝政ロシア軍による民衆虐殺の様子が生々しく描かれる。銃掃射撃を思わせるスネアドラムと、それにつづく阿鼻叫喚の地獄絵図。そして全てが終わったあとの、底なしの静謐。

同作におけるそうした表現を、B級映画的な低俗スペクタクルだと批判する向きもおそらくはあるのだろう。だが一方、そんな低俗で、醜悪で、耳目を覆いたくなるような暴力の渦の中からこそ浮かびあがってくる芸術の輝きも、きっとある。ただしその輝きに触れるには、まず一度、この苛烈な暴力と正面から向き合わなければならぬのが悩ましいところだ。

演奏はマリインスキー&ゲルギエフ。打ちのめしてもらうには申し分のない(むしろ強烈すぎるほどの!?)布陣だ。怒濤の大音響の果てに彼らが奏でるのは、一縷の希望だろうか。それとも、全てを覆いつくす絶望だろうか。

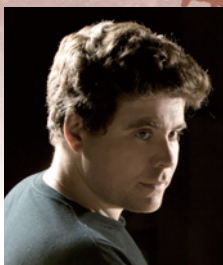


©A.Shapunov

ワレリー・ゲルギエフ (芸術総監督・首席指揮者)

Valery Gergiev, Artistic and General Director

1988年、マリンスキー歌劇場の芸術監督に選出され、同歌劇場を世界中が注目する一流歌劇場へ発展させた、カリスマ性を備えた現代屈指の指揮者。ロッテルダム・フィルの首席指揮者(1995~2008/現在は名誉指揮者)、メトロポリタン・オペラ首席客演指揮者(1997~2002)、ロンドン交響楽団首席指揮者(2007~)など、国際的な主要ポストを歴任し、同時にウィーン・フィル、ベルリン・フィル等の一流オーケストラに客演。また、サンクトペテルブルグの「白夜の星」音楽祭、フィンランドのミッケリ国際音楽祭、コーカサス平和音楽祭、ロッテルダム・ゲルギエフ・フェスティバルなど、数々の国際音楽祭を創設し、芸術監督および音楽監督を務める。



デニス・マツエフ (ピアノ)

Denis Matsuev, Piano

デニス・マツエフは、1998年にモスクワで開催された第11回チャイコフスキー国際コンクールで栄えある優勝に輝いた。以来、世界の檜舞台に突如現れた新星として、瞬く間に当代きっての人気ピアニストの一人となり、確固たる地位を築いている。権威あるショスタコーヴィチ音楽賞、及びロシア連邦国家賞(文学芸術分野)を受賞し、世界中の格式高い有名コンサートホールで数多くのリサイタルを行っている。

世界の有名オーケストラとの共演としては、ニューヨーク・フィルハーモニック、シカゴ交響楽団、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団、ロンドン交響楽団、ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団、BBC交響楽団、フィルハーモニア管弦楽団、ヴェルビエ祝祭管弦楽団、スカラ座フィルハーモニー管弦楽団、フィレンツェ五月音楽祭管弦楽団、フランス国立管弦楽団、パリ管弦楽団、ブダペスト祝祭管弦楽団などが挙げられ、その他に、サンクトペテルブルク・フィルハーモニー交響楽団、マリンスキー歌劇場管弦楽団、ロシア・ナショナル管弦楽団など、ロシアの名門オーケストラとも継続的に共演を重ねている。

マリンスキー歌劇場管弦楽団

The Mariinsky Orchestra

マリンスキー歌劇場管弦楽団は、ロシアで最も古い音楽団体として、由緒ある歴史を誇っている。ピョートル大帝の治世のもと、18世紀に創設され、ロシア革命以前はロシア帝室歌劇場管弦楽団として知られていた。1860年以来、サンクトペテルブルグのマリンスキー歌劇場で演奏を行っていたこのオーケストラは、19世紀後半からエドゥアルド・ナブラヴニク(1839-1916)の指揮のもとで真の黄金時代を迎えた。ナブラヴニクは帝室歌劇場に半世紀以上(1863-1916)君臨し、その指揮のもとでヨーロッパ有数のオーケストラとして認められるようになった。彼はまた、一代の優れた指揮者たちを指導し、後に「ロシア流」として知られるようになった指揮法を編み出した。

キーロフ・オペラと改名されていたソ連時代、オーケストラはエフゲニー・ムラヴィンスキーとユーリー・ティムカノフの指導のもとで高い芸術的水準を維持していたが、1988年、ワレリー・ゲルギエフがオペラの芸術監督に選出され、1996年にはロシア議会からマリンスキー歌劇場の芸術監督および総裁に任命された。レニングラードがサンクトペテルブルグと改名されて間もなく、キーロフ歌劇場は設立当初のマリンスキー歌劇場に名前を戻し、オペラ、バレエそして当管弦楽団の本拠地となった。

【お願い】 ●演奏中および楽間での入退場は制限させていただきます。 ●やむを得ない事情により、出演者・演奏曲目・曲順などが変更されることがあります。 ●ご予約後の変更およびキャンセルはお受けできません。 ●公演中止の場合を除き、一度購入されたチケットの払い戻しはできかねますのでご了承ください。 ●未就学児童の同伴はご遠慮ください。託児サービスをご利用ください。(要予約:満1歳以上の未就学児対象。有料2,100円/お一人様。11月5日(月)17時までにお申込みください。) ●車椅子席のご予約は財団法人文化スポーツ振興財団へお電話でお申し込みください。

<主催・お問合せ>財団法人 大分県文化スポーツ振興財団 大分市高砂町2-33 ☎097-533-4004 <http://www.emo.or.jp>